

新型コロナワクチン接種

最後の接種日から3か月が経過した12歳以上の方を対象に、オミクロン株対応ワクチンの接種が始まっています。菰野厚生病院、保健福祉センターけやきでの集団接種もしくは以下の各医療機関で接種できます。個別医療機関で接種する場合は各医療機関へお問い合わせください。

※四日市市、朝日町、川越町の個別医療機関でも接種を受けることができます。
※町内個別医療機関で使用するワクチンはファイザー社製です。

町内医療機関名	12歳～17歳	18歳以上
あそクリニック	○	かかりつけ以外も可
潤田 2150-3 TEL394-5577		
内田クリニック	○	かかりつけ以外も可 ※休診日等はHPをご覧ください。
小島 1157-1 TEL399-2800		
おおた内科循環器科	○	かかりつけ以外も可
田口新田 2909-5 TEL399-2212		
しばた内科循環器科	×	かかりつけ以外も可
竹成 2657-5 TEL399-2225		
服部内科	○	原則かかりつけのみ
潤田 4116 TEL394-7000		
ばんの小児科	○	かかりつけ以外も可 ※休診日等はHPをご覧ください。
菰野 2268-5 TEL393-3000		
ひとみウィメンズクリニック	○	かかりつけ以外も可
大羽根園並木通り 10-1 TEL327-5400		
諸岡医院	○	かかりつけ以外も可
田光 4465-2 TEL396-0061		
リハビリ整形外科Iクリニック	○	かかりつけ以外も可
潤田 1198-1 TEL391-0555		

6か月～4歳の乳幼児
ワクチン接種
START

6か月から4歳までの乳幼児も新型コロナワクチンを接種できるようになりました。接種券の発行には申請が必要です。接種希望の方は、「接種券発行申請のご案内」が届き次第、申請フォームやコールセンターなどでお申し込みください。



注意 1・2回目接種を終了

※転入者の方で接種券が届かない方は下記までお問い合わせください。

健康福祉課
新型コロナウィルス
予防接種対策室

TEL 327-5431 FAX 327-5607

年内を目途に新型コロナワクチンの1・2回目接種が終了します。1・2回目接種が完了していないとオミクロン株対応ワクチンは接種できません。接種がまだの方は、ご検討ください。

北は秋田県、最高齢は86歳

全国各地からランナーが集結

全国各地からランナーが集まるかもしれないかもしかハーフマラソン。今大会での最も遠方からの参加者は秋田県の方でした。また、最高齢として3ヶの部に86歳の方がエントリーされました。



▲大会終了後には県建設業協会の皆さんによってコース上の清掃活動が行われました。

ます。スタッフの皆さんには給水所運営や駐車場整理、コース案内などさまざまな役割を担っていただいております。その多くの方々は、ボランティアとして大会を支えています。そのような方々の協力のおかげで感染症対策が求められる中、大会を開催でき、ランナーに全力で菰野町を走ってもらうことができました。第15回目の出走となった今大会。多くの皆さんの支えで無事に完走しました。



問い合わせ
コミュニティ振興課

TEL 391-1160 FAX 328-5995

スポーツ・文化振興会内
鈴鹿山麓かもしかハーフマラソン実行委員会

TEL 394-3930 FAX 394-1517



1 ボランティアが多数集まって行った参加者への資料等の封入作業 2 検温を行い入場ゲートへ案内される参加者

マ昇26最たけコし、
ラ℃高気当抜コース、
ソま温日まけをの
ンで上がはましを
のの上がはましを

約

4000人のランナーが出走するためにかもしかハーフマラソンでは、携わるスタッフの総数が1000人を超えています。

大会を支える多くのスタッフ

大 会当日は直前まで降雨の予報となっていたものの、青空が見える秋晴れの一日となりました。ランナーは「ファミリアの部」「ハーフの部」「2ヶの部」「10ヶの部」「3ヶの部」に分かれてスタートし、町内のコースを駆け抜けました。最高気温は26℃まで上昇し、秋の空が見える秋晴れの一日となりました。ランナーは「ファミリアの部」「ハーフの部」「2ヶの部」「10ヶの部」「3ヶの部」に分かれてスタートし、町内のコースを駆け抜けました。



▲地域の皆さんから各所でランナーへの声援が贈られる。

町内各所であり、給水所ではボランティアから給水ドリルを「頑張っ」という声掛けとにも手渡され、ランナーたちは汗をぬぐいながら完走を目指していました。

地域でつくりあげていく大会

かもしかハーフマラソンは、1,000人を超えるスタッフにより成り立っており、その多くがボランティアとしてご協力いただいています。沿道からのランナーへの声援もこの大会を形づくっているひとつの要素となっており、まさに地域でつくりあげている大会であると言えます。

鈴鹿山麓かもしかハーフマラソン
実行委員長
にしむらひとし
西村仁志さん

駆ける 第5回に 懸ける

感染症に配慮しての開催

全

全国各地から多数のランナーが集まる鈴鹿山麓かもしかハーフマラソンにおいて、まず配慮しなければならぬことは感染症対策でした。参加する皆さんには、これまでの大会と違い、あらかじめゼッケンや資料を郵送し、会場入口には入場ゲートと検温ブースを設けるなど感染症対策を徹底しました。また、ランナー以外の来場者にも検温、手指消毒を

厳しい気温となった大会当日

必ず行っていたように、会場内には飲食ブースを設けず、ランナーが出走する時以外はマスクを着用するようお願いしました。

町内の100か所を超える地点にスタッフで手分けして案内看板を取り付けました。

え!?

そんな格好でマラソン? 個性的なユニークランナー

かもしかハーフマラソンで恒例となっているユニーク賞。今大会では、約25名の方がユニーク賞にエントリーし、多種多様なコスチュームに身を包んで出走し、町内を賑わせていました。

